

本牧ウォークに在りし日の断崖を

CMEO 事業部 日栄彰二

持ち回りとなった本コラム、毎月違ったトーンでお届けしていますが、今回は私にお付き合い下さい。日栄と申します。「日栄と書いて、ひえいと読みます」、これは名刺交換時の添え言葉のようなもので、ここから比叡山や日栄商事、または稗（ひえ）や粟などの話に転がっていくことが多いのですが、今回はある日曜日、ウォーキングイベントの一コマをお届けいたします。Yano E plus は広くエレクトロニクス領域の最新市場動向をレポートしています。ホットな情報で熱くなっている皆様の息抜きとしてこの場があるという前提で、しばし一緒にお歩き下さい。

日曜午前、人もまばらの山下公園ではランニングボーイズ&ガールズ、それにスケッチブラザーズ&シスターズがあまりに生き生きと過ごしているので、ただ集合場所に急ぐだけの私も妙に高いテンションになった。これはマリルージュ号とマリンタワーの間に位置する石のステージが集合場所だったことも影響しているかも知れない。失礼だがランナーもスケッチャー（画家さん）も絵的には重厚な色を醸し出しているの、これだけではテンション引き上げ効果は薄い。

今回は約 10km のコースだがスタート直後は足も軽やか。しかし、いきなりフランス山から港の見える丘公園と結ぶルート、特に最初のフランス山、元町商店街の終わり位からの登り階段は大渋滞だ。このことだけでもこのイベントの参加者層が窺い知れよう。そう、私も、と言われそうだが普段からしっかり歩いているような人達は見る限り少ない。健康、ダイエット、有酸素運動などの喉から手が出るキャッチコピーに吸い寄せられた、というのが本音で、普段から適度に歩くことは身についていない。

そんな私の救世主はところどころにスタンバイして下さっているボランティアガイドの方達だ。そのポイントについてのミニ説明会が繰り返されるひととき。美術館などでもそうだが、これまでの私は基本的にこの手の説明はパスしてスピード競技でもないのにただ先を急いでいることがほとんどだったが、この日はほぼフル聴講の優等生。足を休めるのが主目的のはずだが自然と耳もダンボになっていった。耳に残ったことのひとつに「ワシン坂」がある。この日のコース舞台を含めこの辺りは坂が多いとは知っていたがそんな名前の坂があるとは初耳だった。結局諸説あるということでその名の由来は興味から外れたが、ベイブリッジをはじめ遙か彼方にスカイツリーが拝めると聞き、よりよい眺望ポイントまで逆行する力強さが出る始末だ。

ワシン坂を下り、湧き水（坂の名前由来のひとつとなっているワキシミズ）で喉を軽く潤し、しばらくすると本牧の町並みが広がった。私にとっての本牧はムーンアイズのショップがある場、ということだけだ。昔は元町にもあったのだが、今は不便な場所になったなあ位にしか思っていなかった。しかし、ここでのボランティアガイドさんは秀逸だった。自ら A3 サイズの画像や文献ファイルを豊富に用意され、ビジュアルにも訴えかけてきてくれた。開港時は景勝地として有名だったそうで、移り住んだ列強国の方達は 1 日家で過ごすということは無く、毎日馬車に乗って“散歩”を

楽しんだということだ。ほどよく足が痛くなってきた私にはなんとも羨ましい話だったが、次のネタである断崖の話となると、戦後1982年まで米軍に接収されていたことなどより私の目を引いた。ペリーが「マンダリン・ブラフ」と呼んだとされるオレンジ色の断崖が続く場所は、そこから先が以前海であったことを私には想像させられない状態であったが、ガイドさんの巧みなトークと小道具のおかげで頭の中に当時の情景が鮮明に映った（少々ガイドさん親派になるが）。もちろん、実際見せられたものは数枚の絵に過ぎないが、紙芝居親父のようにガイドさんの絶妙な口上ですっかり私はタイムスリップしていた。

その時頭の中ではもうひとつ気付くことがあった。フィールドワークの効能、必要性である。多分、いつもの私のように車に乗りポンとその場に降り立つだけでは得られないことが今回は三ツ星ガイドさんのおかげで、長いときの流れの中にじっくり身を置くことができた。Yano E plusをはじめとする我々の諸業務はフィールドワークで成り立っている。多くの方達との接触面積を広げる中で多くの情報をやり取りし、それを活かす形でレポートを作り、その先のビジネスにつなげている。極端に言うと事務所でPCに向かうことよりフィールドワークを重視すべき、と私は理解している。しかし、このフィールドワーク、的確な人に的確なタイミングでお会いさせていただくことはとてもハードルの高い作業で、その点では私もまだまだ幼子だ。これからも精進したい。

勝手なクライマックスからゴールである山下公園に向かう足取りは当然重い。ゴールした頃はスタート時とは別世界のカップルとファミリーのステージになっていた。そこから中華街を通って石川町駅に向かったが、中華街も朝とは全く違う顔を見せバーゲン会場さながらであった。中華街なのに韓流ショップが新大久保並の混雑であったことと、チャイニーズパワーはここでも健在であったことを添えておく。